

黒毛和種繁殖牛の審査指導のポイント

池田博文

目的

入来牧場では、学生実習で黒毛和種繁殖牛の審査を、外貌記載法および減率法を用いて指導している。

本調査では、外貌記載法での各部位の記載値と減率審査における得点について、学生と場員間の違いを明らかにし、実習での技術職員の審査指導力量を高めるための基礎資料を得ようとした。

材料と方法

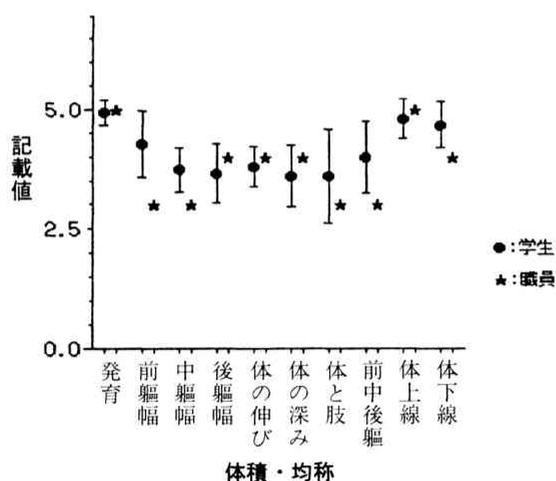
1993年12月16日の生物生産学科15名の実習で、黒毛和種繁殖牛2頭を用いて審査指導を行った。1頭は学生に審査方法について、約30分程度説明した。他の1頭については、学生は個々に外貌記載値と審査得点を出し、場員3名は、通常行われる合議により外貌記載値と得点を出した。

結果

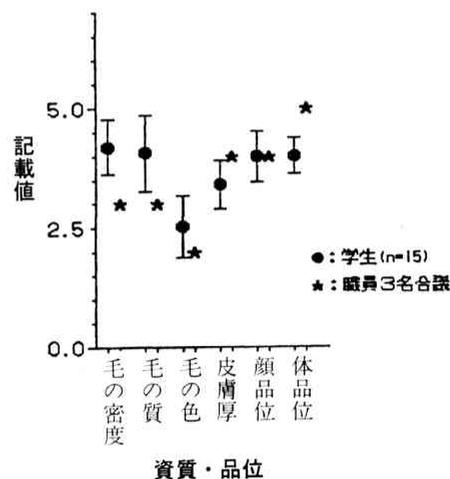
外貌記載法審査での体積・均称の項目では、学生と場員間で前・中軀幅、釣合いおよび体下線の記載値に差が認められ、学生は場員よりいずれも高く判定した(第1図)。資質・品位の項目では、毛の密度や質および体の品位の記載値に、学生と場員間で差が認められ、毛の密度や質の値は学生が高く、体の品位では場員が高く判定した(第2図)。腿の記載値は学生と場員間で大きな差は認められなかった(第3図)。乳房の記載値は学生と場員間で、乳房の質において差が認められ、学生が低く判定した(第4図)。肢蹄の記載値は肢勢にやや違いが認められた(第5図)。

外貌記載法審査を行ったうえで減率審査をおこなった結果、学生と場員間では、各部位の減率に大きな差は認められなかった(第6図)。学生による減率審査得点分布は、場員の審査得点を中心にほぼ分布した(第7図)。

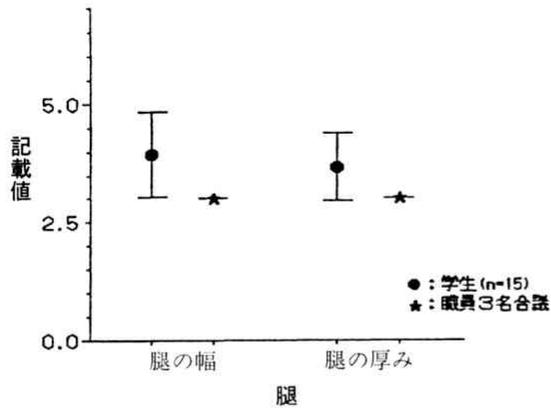
以上のことから、黒毛和種繁殖牛の審査を効率的に指導するには、外貌記載法での体積・均称項目における前・中軀幅および釣合い、資質・品位項目における毛の密度および質ならびに体の品位、乳房項目における乳房の質、肢蹄項目における肢勢の記載について、種々の実例を示し、十分に理解させた上で減率審査を指導することが重要であると考えられた。



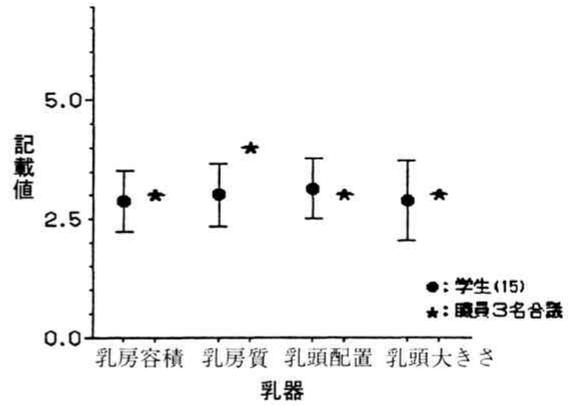
第1図 外貌記載法審査における学生と職員
の記載値の違い。



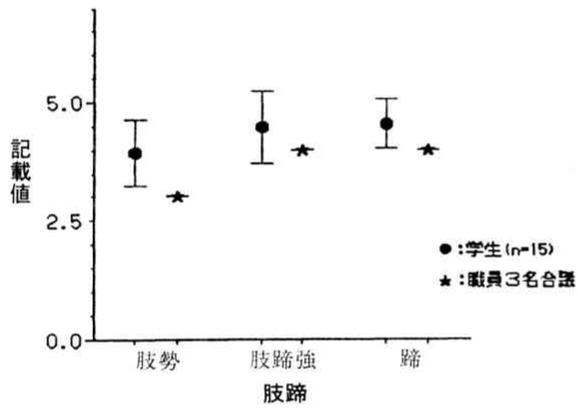
第2図 外貌記載法審査における学生と
職員間の記載値の違い。



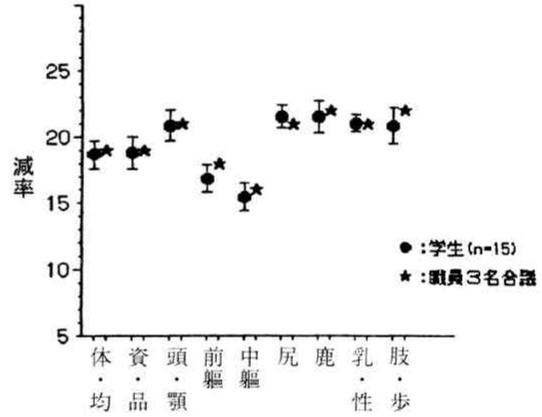
第3図 外貌記載法審査における学生と職員間の記載値の違い。



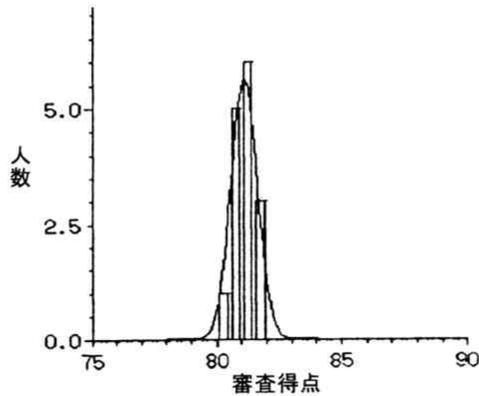
第4図 外貌記載法審査における学生と職員間の記載値の違い。



第5図 外貌記載法審査における学生と職員間の記載値の違い。



第6図 減率審査法における学生と職員間の減率の違い。



第7図 同一牛に対する学生の審査得点の分布。
(職員3名合議による審査得点は80.6)